

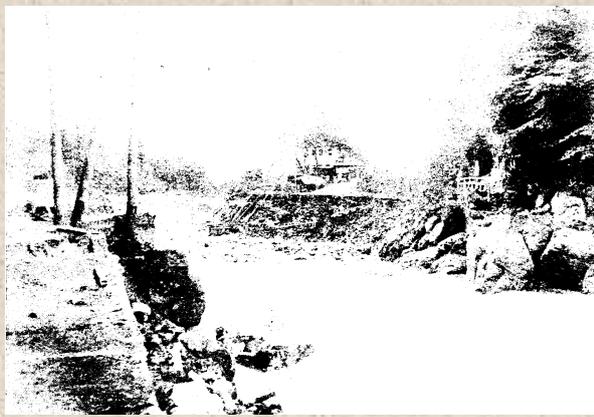
もっと知りたい？

神橋・滝尾神社

ほか



明治35年の洪水で被災した滝尾神社



明治35年の洪水で流出した神橋



現在の滝尾神社



現在の神橋

滝尾神社を見るなら

■バス：JR日光駅・東武日光駅より東武バス中禅寺温泉または湯元温泉行きで「西参道」下車、徒歩約30分

神橋を見るなら

■バス：JR日光駅・東武日光駅より東武バス中禅寺温泉または湯元温泉行きで「神橋」下車

◆明治35年(1902)の洪水

明治35年(1902)年9月の台風は、日光連山を中心に豪雨をもたらし、鬼怒川は大洪水となりました。大谷川では、神橋が造営以来初めて流され、男体山では観音薙に土石流が発生、中宮祠二荒山神社拝殿及び西にあった中禅寺立木観音堂が大量の土砂で埋まったと伝えられます。土石流は、日光尋常高等小学校の中宮祠分教場にも到達し、校舎とともに教師とその一家が生き埋めとなりました。この台風による被害は、死者156名、行方不明63名、負傷者280名、家屋の被害は全壊8217戸、半壊389戸でした。神橋、滝尾神社など、今も見られる観光名所が被害を受けました。

◆昭和41年(1966)にも名所に被害

昭和41年9月の台風による豪雨でも、大谷川・鬼怒川は大洪水を引き起こしました。稲荷川右支川の天狗沢で土石流が発生し、滝尾神社参道や滝尾稲荷神社が被災しました。また、竜光院沢の右支流上流で表層の崩壊が発生。崩れた土が土石流となって溪流、立木を巻き込んで流下したと推定されます。このとき、大量の流木と土石が竜光院に達したことが記録に残っています。



◀ 竜光院

写真2点とも流木や土砂の被害に見舞われた竜光院